

2026年度日系社会研修 コース概要

No	N-19
所管センター	横浜
分野	環境
研修コース名	環境教育指導者養成コース
受入人数	12
受入時期	上半期
来日日	2026年11月11日（水）
帰国日	2026年12月5日（土）
提案団体	公益財団法人キープ協会
担当者名（日）	鳥屋尾 健
連絡先メールアドレス	t.toyao@keep.or.jp
提案団体ウェブサイトアドレス	https://www.keep.or.jp/
研修員必要資格	環境系・教育系いずれかの大学またはそれに準ずる学校の卒業者が望ましい。
研修員に必要な実務経験年数	現場経験1年以上のものが望ましい。
研修使用言語	ポルトガル語
日本語能力（JLPT目安）	N5
英語能力	不問
研修目標	研修員が環境教育指導者（インタープリター）として、必要な基礎技術と知識を取得する。
期待される成果（習得する技術）	<ul style="list-style-type: none"> ・環境教育の概要を理解する。 ・インタープリテーション（定義、種類、原則、資質、素材の理解、対象の理解、コミュニケーション、プログラムデザイン等）の基礎知識を理解する。 ・キープ協会の実践を参考に、自国で学校等の現場で環境教育プログラムを行うことができる。
研修計画（内容）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義：環境教育概論、インタープリテーション概論、展示・教材、プログラムデザイン、体験学習法、環境教育の協働事例 2. 実習：体験：環境教育プログラム（ガイド型・クラフト型・ワークショップ型）、プログラムの相互実施と練り直し、研修成果のまとめ 3. 見学：キープ協会各施設、田貫湖ふれあい自然塾、環境省生物多様性センター、富士山科学研究所、清里聖ヨハネ保育園 4. 発表：研修成果のまとめ
本研修実施の意義 現地日系社会への裨益効果	<p>本研修で身につくインタープリテーションを中心とした環境教育の知識と技術は、帰国後、住民や子供たちへの直接的な啓発活動や、環境教育のプログラム開発が期待される。各地域特性にあった、半日～数日間のプログラムや、教員が学校等で利用できるプログラムの開発である。また、そうしたプログラムを教員などの指導者へ環境教育トレーニングへの活用が期待される。日系研修員が研修で習得した手法を実施し、知識を情報発信することは、中南米の環境保全に影響を与え、現地社会への貢献に繋がることが期待できる。</p> <p>また、環境教育の知識と技術は、様々な場作りの基礎技術ともなり、多様な人と人、人と場をつなぐことによるコミュニティーの活性化が期待できる。</p> <p>環境問題が、経済・文化・地域の課題とも関わっていることから、パートナーシップを組んで、課題解決にあたる必要がある。そうしたコーディネートの力が、本研修の中で培われる。</p>
応募希望者への特記事項	

2026年度日系社会研修 コース概要

No	N-26
所管センター	沖縄
分野	日本文化
研修コース名	沖縄空手文化研修
受入人数	13
受入時期	下半期
来日日	2026年10月7日（水）
帰国日	2026年11月7日（土）
提案団体	一般社団法人沖縄伝統空手道振興会
担当者名（日）	上原 邦男、棚原 研一、徳嶺 竜二、小林 信吾（主）
連絡先メールアドレス	tokumner@odks.jp
提案団体ウェブサイトアドレス	https://www.odks.jp/
研修員必要資格	「望ましい条件」 ・沖縄空手に関心のある者 ・帰国後も学んだ知見を活かし、ウチナーネットワークの継承と発展に向けた活動を積極的に行う意欲のある者
研修員に必要な実務経験年数	不問
研修使用言語	日本語、スペイン語
日本語能力（JLPT目安）	N5
英語能力	英語でのコミュニケーション可
研修目標	研修員が沖縄空手を中心とする沖縄文化の知見を習得する。
期待される成果（習得する技術）	①研修員に、沖縄空手を中心とする沖縄文化の全体像が理解される。 ②研修員に、沖縄空手の伝統的技・知見が習得される。 ③上記①、②により研修員に文化的アイデンティティの継承や交流の架け橋の担い手としての意識が形成される。
研修計画（内容）	1. 講義：沖縄空手を中心とする沖縄文化の概要 2. 実習：沖縄空手の主要流派等（首里・泊手系・剛柔流・上地流系、古武道）の基礎習得、空手の日記念演武祭参加 3. 見学：沖縄空手会館等 4. 発表：研修成果発表会（内部及び沖縄空手関係者）
本研修実施の意義 現地日系社会への裨益効果	沖縄は空手発祥の地である。世界に空手愛好家は約1億3千万人いるとも言われており、空手を通じた人的交流が促進されている。 沖縄の空手は、唯一無二の沖縄独自の技術や哲学が取り入れられ発展を遂げてきた。鍛錬を通じて孝行や礼儀を教えるなど人間形成や道徳教育にも繋がっている。また、日常的にも地域の伝統行事等で空手演武が行われるなど、沖縄文化の基層となるものである。 沖縄空手文化研修を通して沖縄の独特な文化に触れるとともに、沖縄空手の習得を支援することは、国際交流促進に貢献するものであり、文化的アイデンティティの継承や交流の架け橋となる次世代の人材育成に寄与するものである。
応募希望者への特記事項	空手着をお持ちの方はご持参下さい。

2026年度日系社会研修 コース概要

No	N-27
所管センター	九州
分野	日本文化
研修コース名	長崎の伝統芸能「龍踊」の継承と姉妹都市交流の推進による日系社会の活性化
受入人数	2
受入時期	下半期
来日日	2026年10月7日（水）
帰国日	2026年11月7日（土）
提案団体	長崎市
担当者名（日）	吉澤 静渉
連絡先メールアドレス	yoshizawa_shizuho@city.nagasaki.lg.jp
提案団体ウェブサイトアドレス	https://www.city.nagasaki.lg.jp/
研修員必要資格	必要資格；満21歳以上（2026年4月1日現在）
研修員に必要な実務経験年数	実務経験1年以上
研修使用言語	日本語、英語
日本語能力（JLPT目安）	N3
英語能力	英語での資料読解、発表、レポート作成可
研修目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 龍踊に対する考え、思いを学ぶ ・ 龍踊を演じるにあたり必要な龍の動き、囃子の演奏技術を学ぶ ・ 龍踊に必要な事前準備（稽古、手入れ）を学ぶ ・ イベント等で龍踊を披露する場合の演出等を学ぶ ・ 長崎市とブラジル・サントス市との姉妹都市交流について学ぶ ・ 長崎市の平和への取組みについて学ぶ <p>以上の研修で龍踊に関する知識や技術を習得し、これらを担い手として県人会を含む日系社会に普及・継承することで、ブラジルにおける長崎の伝統芸能の普及・継承につながるとともに、県人会内の活性化と連帯感の造成につなげる。</p>
期待される成果（習得する技術）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 龍踊の実技、囃子の技術 ・ 龍の手入れ方法 ・ 長崎市とブラジル・サントス市との深い関係性への理解促進と今後の都市間交流推進への貢献
研修計画（内容）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 龍踊り、おくんちの歴史などの座学 ・ 龍踊り、おくんち、長崎市の歴史・文化に関係する施設の視察 ・ 龍踊りの実技指導（稽古、イベント参加） ・ 龍の手入れ等の指導 ・ イベント等の運営補助 ・ 長崎市とブラジル・サントス市との都市間交流に関する座学 ・ 平和関連施設の視察
本研修実施の意義 現地日系社会への裨益効果	<p>日本や長崎を知らない次世代の青年層の継承者が、この研修を通じ技術的なものとともに、実際に長崎を肌で感じ龍踊の300年余の伝統に触れることができれば、愛着を倍加することになり、責任を持って活動に携わるようになる。</p> <p>このことにより県人会の活性化のみにとどまらず、各種イベントへの参加も増大し、日本文化のアピールにもなり日系社会そしてブラジル社会への寄与も大きくなる。</p> <p>混沌とした世相の中、今ブラジルで求められている規律や習慣の正統なる日本の文化を、龍踊を通じしよって立つ意識の芽生えも期待される。</p> <p>あわせて、現在のところ見様見真似で行っている龍踊の演技の基本をもう一度確認する事はこれからの発展に欠かせないものであり、補修の技術的な技と補修材料に接する機会は、百聞は一見に如かずで、当地での立て替え材料などの選定も容易になると考えられる。</p> <p>さらに、長崎市とサントス市の姉妹都市交流についても、この研修を通じて参加者が両都市間の友好交流へのキーパーソンの一人になることが期待される。</p>
応募希望者への特記事項	<p>英語ができなくても日本語ができれば可。</p> <p>本市では受入期間中週に3回日本語講座を開講しているため、日本語学習において継続的なサポートが可能。</p>

2026年度日系社会研修 コース概要

No	N-28
所管センター	九州
分野	日本文化
研修コース名	「和食」ビジネス振興
受入人数	8
受入時期	下半期
来日日	2026年10月7日（水）
帰国日	2026年11月7日（土）
提案団体	公益財団法人 北九州国際技術協力協会
担当者名（日）	山下 幸介
連絡先メールアドレス	k-yamashita@kita.or.jp
提案団体ウェブサイトアドレス	http://www.kita.or.jp
研修員必要資格	日本食品関連の日系事業者および起業家、日本食品関連の日系コンサルタント
研修員に必要な実務経験年数	実務経験3年以上
研修使用言語	日本語、ポルトガル語、またはスペイン語 （参加者の語学力によってポルトガル語またはスペイン語のいずれかの通訳を備上するため、日葡西のいずれかの言語能力が必要）
日本語能力（JLPT目安）	不問
英語能力	英語でのコミュニケーション可
研修目標	「和食」ビジネスの起業・振興能力を身につけ、起業・振興計画が策定・実行される。
期待される成果（習得する技術）	1. 和食文化・背景を理解し、和食についての広い知識を習得する。 / 2. ビジネス振興のための実践能力を習得する。 / 3. 「和食」ビジネス起業・振興のためのアクションプランが作成できる。
研修計画（内容）	1. 日本食品の体験・視察（食材・調味料⇒味噌・醤油等、日本料理⇒郷土料理・蕎麦料理等） / 2. 日本食品関連経営・事業者能力向上に関する講義（農業の六次産業化、日本経営型、顧客満足経営、人材育成・コーチング、経営・マーケティング戦略、産官学連携） / 3. 日本食品関連の調査・視察（北九州市場調査、食器、食品廃材利用等）
本研修実施の意義 現地日系社会への裨益効果	日系社会が、「和食」を媒体として食品産業の飛躍や食を通しての健康増進に貢献できる。また、日系社会自体、「和食」を基調とした日本文化の再発見により、日本人としての”誇り”となる。
応募希望者への特記事項	テキストは、日本語、ポルトガル語、英語にて対応。

2026年度日系社会研修 コース概要

No	N-29
所管センター	横浜
分野	日本文化
研修コース名	ポップカルチャーを通じた日系社会活性化
受入人数	8
受入時期	下半期
来日	2026年11月11日（水）
帰国日	2026年12月10日（木）
提案団体	公益財団法人海外日系人協会
担当者名（日）	水上 貴雄
連絡先メールアドレス	kenshu@jadesas.or.jp
提案団体ウェブサイトアドレス	https://www.jadesas.or.jp/
研修員必要資格	<p>【必須資格】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・このコースで習得した内容を日系団体や日系コミュニティの活性化のためのイベントの企画・実施に活かす意欲を持つ者 ・日本のポップカルチャーに関する基礎的知識を有する者 ・地域や日系社会のリーダーとして、ポップカルチャー等日本文化イベント運営に携わった経験のある者
研修員に必要な実務経験年数	実務経験3年以上
研修使用言語	日本語、スペイン語
日本語能力（JLPT目安）	N4
英語能力	不問
研修目標	研修員が、ポップカルチャーに関する知識およびポップカルチャーを活用した地域活性化、組織運営及び人材育成等の方法を習得する。
期待される成果（習得する技術）	<ol style="list-style-type: none"> 1. ポップカルチャーと日本の伝統文化の接点を理解し、ポップカルチャー及び日本文化に関する知識を深化させる。 2. ポップカルチャーを活用したなどコミュニティ活動への参加者増に資するアイデアを考察する。 3. 持続可能な日系団体運営のための基礎的な知識を習得する。 4. 研修員が、帰国後の具体的な実践計画を作成する。
研修計画（内容）	<p><ポップカルチャー・日本文化に関する知識> 【講義】 ポップカルチャー論／【視察】 ポップカルチャー関連施設、マンガ・アニメ制作現場</p> <p><ポップカルチャー活用法> 【講義】 イベントの企画運営、教室運営、ポップカルチャーを活用した地域振興／【演習】 ポップカルチャーイベント企画、ポップカルチャーを活用した地域振興企画／【視察】 ポップカルチャー関連イベント、ポップカルチャーを活用した地域振興事例</p> <p><団体運営> 【講義】 各国日系団体活動事例（現状と課題）、日本人移住の歴史と日本文化／【演習】 マンガを活用したチームビルディング</p> <p><実践計画作成> ファシリテーション手法、討議、実践計画作成</p>
本研修実施の意義 現地日系社会への裨益効果	<p>本研修のテーマであるポップカルチャーは訴求力が高く、等身大の現代日本を伝える有効な手段であることから日本の良き理解者を拡大させる最も効果的なツールの一つであると言える。</p> <p>また、若い世代の日系社会離れが進む一方で、ポップカルチャーを入り口として日本語や日本文化に興味、関心を持ち日本語を学び始める、あるいは日系団体活動に積極的に参加する若い世代の人材が日系、非日系を問わずおり、日系団体活動の参加者の裾野を広げている。このような者の中には、ポップカルチャーに留まらず日本の伝統文化、習慣、日本的価値観への理解を深め、日本語教師となる者も存在することから、ポップカルチャーには日本文化理解の深化につながることを期待でき、更に日系社会におけるコミュニティ活動への参加者を増加させ、地域社会活性化に貢献できる人材育成にもつながることが期待される。</p>
応募希望者への特記事項	

2026年度日系社会研修 コース概要

No	N-30
所管センター	中国
分野	日本文化
研修コース名	日本の食文化（お好み焼き）の継承による日系社会の活性化
受入人数	1
受入時期	下半期
来日日	2026年11月11日（水）
帰国日	2026年12月5日（土）
提案団体	（公財）ひろしま国際センター 研修部
担当者名（日）	小田 周玄
連絡先メールアドレス	hicc12@hiroshima-ic.or.jp
提案団体ウェブサイトアドレス	https://www.otafukusauce.com/e/
研修員必要資格	<ul style="list-style-type: none"> ○年齢21～50歳が望ましい ○実習・OJTのために必要な日本語によるコミュニケーション能力を十分に有していることが必須 ○基本的な調理の知識及び技術がある方（包丁などが使える方）
研修員に必要な実務経験年数	不問
研修使用言語	日本語
日本語能力（JLPT目安）	N3
英語能力	不問
研修目標	<ul style="list-style-type: none"> ○日本で継承されているお好み焼きの作り方を学び、一定の品質で焼けるよう習熟し、自国の日系社会で指導することができるようになる。 ○お好み焼きを複数人で効率的に大量に作るオペレーション手法を学び、日系イベントやお祭り等で実践できるようになる。 ○イベント等にて、来場者等にお好み焼きの魅力や文化的な背景を伝えることができるようになる。 ○接客や衛生管理について、日本のやり方を参考とし、必要に応じてイベント等で実践する。
期待される成果（習得する技術）	<ul style="list-style-type: none"> ○お好み焼きの調理法（品質管理、トッピング・アレンジ） ○お好み焼きを複数人で大量に作るオペレーション手法 ○お好み焼きに関連した食文化に関する知識 ○衛生管理 ○接客
研修計画（内容）	<ul style="list-style-type: none"> ○オタフクソース株式会社で、お好み焼きに関連した食文化に関する知識を学び、イベント等でお好み焼きを効率的に大量に焼くためのオペレーション手法を学ぶ。 ○オタフクソース株式会社から紹介を受けたお好み焼き店の現場で実習を行い、品質管理が徹底された調理法、トッピングや現地で手に入りやすい食材を使ったアレンジ、衛生管理、接客の手法について学ぶ。
本研修実施の意義 現地日系社会への裨益効果	<p>お好み焼きは、日本の戦後復興とともに発展し、今なお幅広い層に親しまれているという背景から、日系人のアイデンティティを刺激することができる食文化の一つである。お好み焼きは、栄養バランスに優れていることに加え、材料は世界中のどこでも手に入りやすく、その土地に合ったアレンジを加えることも容易であり、日系イベント等で大量に安価で提供することが可能である。このように、お好み焼きは質量共に日本の食文化として発信力が高いと考えられ、それが各国で評価されることにより、日系人であることに誇りを持ち、日系社会の共同意識と連帯を高め、活性化につながると考えられる。</p>
応募希望者への特記事項	<p>この案件は、2024年度から新規に始まったものであり、初年度はブラジルからの研修員の参加があった。研修員からのフィードバックは、とてもポジティブな内容であり、研修を通して学んだお好み焼きの作り方に係る技術等を母国に持ち帰り、現地での日本祭り等で販売したいとの思いを持っている。応募希望者の方には、是非とも本場の広島県でお好み焼きの知識・技術を学んでいただき、母国でのお好み焼き普及に貢献いただきたい。</p>

2026年度日系社会研修 コース概要

No	N-31
所管センター	横浜
分野	日本文化
研修コース名	和菓子を通じた日系社会活性化
受入人数	8
受入時期	下半期
来日日	2027年1月20日（水）
帰国日	2027年2月25日（木）
提案団体	公益財団法人海外日系人協会
担当者名（日）	水上 貴雄
連絡先メールアドレス	kenshu@jadesas.or.jp
提案団体ウェブサイトアドレス	https://www.jadesas.or.jp/
研修員必要資格	必須資格： 営利、非営利を問わず菓子の製造販売に携わっており、日系団体の活動に関わっている者。 帰国後、習得した技術を日系社会や周辺社会のために活かす意思のある者
研修員に必要な実務経験年数	実務経験1年以上
研修使用言語	日本語、スペイン語
日本語能力 （JLPT目安）	不問
英語能力	不問
研修目標	研修員が、和菓子に関する知識を深め、より質の高いあるいは地域資源を活用した和菓子を製造販売するための技術を習得し、日系社会活性化に役立てる。
期待される成果 （習得する技術）	1. 和菓子に関連する全般的な知識・技術を習得する。 2. 和菓子を活用したビジネスモデルを考案する。 3. 持続可能な日系団体運営のための基礎的な知識を習得する。 4. 研修員が、帰国後の具体的実践計画を作成する。
研修計画（内容）	<p><和菓子に関する知識・技術> 【講義】和菓子の歴史と日本の食文化、季節と和菓子、茶道と和菓子／【実習】和菓子製造技術（生菓子・半生菓子・干菓子、創作）、茶体体験／【視察】和菓子工場、和菓子販売の現場、和菓子と道具</p> <p><和菓子を活用したビジネスモデル> 【講義】ビジネスモデル構築法、和菓子とマーケティング／【演習】和菓子ビジネスモデル作成、和菓子ラッピング法／【視察】和菓子ビジネスの現場</p> <p><日系団体運営> 【講義】日系社会と日系団体活動、日系社会における和菓子の継承、ファンドレイジング手法／【演習】ファンドレイジング計画立案、和菓子を活用したワークショップ</p> <p><実践計画作成> ファシリテーション手法、討議、実践計画作成</p>
本研修実施の意義 現地日系社会への裨益効果	本コースは和菓子の伝統的な製造技術はもとより、和菓子の歴史、文化的背景、和菓子の販売促進技術等、和菓子に関する多方に渡る基礎知識を習得することにより、日本文化の継承および現地日系社会の活性化、並びに新たなビジネスリソースとしての和菓子製造販売方法の習得をを目指す。また、現地日系社会の状況に鑑み、簡略化が可能な部分は電子レンジや家庭用の鉄板を利用でき、家庭で作れる和菓子のレシピを学び、本格的な道具がなくとも現地で応用可能な技術を習得する。このようなレシピは現地のイベントにおける提供・販売や日系団体の活動のなかで和菓子教室を開く際に役立つほか、あわせて一般市場において和菓子が販売されるようになることはより裾野を広げた形式での現地における日本文化の継承・発信にもつながる。
応募希望者への特記事項	応募書類に菓子製造販売の経験について、内容と経験年数を明記すること。

2026年度日系社会研修 コース概要

No	N-32
所管センター	横浜
分野	日本文化
研修コース名	太鼓の技術認定及び指導者育成
受入人数	8
受入時期	下半期
来日日	2027年1月20日（水）
帰国日	2027年3月6日（土）
提案団体	公益財団法人日本太鼓財団
担当者名（日）	高戸 風香、笠原 巧
連絡先メールアドレス	jigyo@nippon-taiko.or.jp
提案団体ウェブサイトアドレス	https://www.osuwadaiko.com/
研修員必要資格	<p>必須資格：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2026年4月時点で21歳以上である ・ 日本語能力試験（JLPT）N3以上を取得している ・ 日系社会において太鼓を指導（5団体以上）または演奏している ・ 太鼓活動を始めて5年以上である <p>望ましい条件：</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本太鼓資格認定制度に基づく公認指導員または技術認定員の資格を取得している * 資格を取得している場合は認定証を提出、または取得年月日と講習会参加場所を明示
研修員に必要な実務経験年数	その他（必要資格欄に記載）
研修使用言語	日本語
日本語能力（JLPT目安）	N3
英語能力	不問
研修目標	<p>① 研修員が、長野県岡谷市において研鑽を重ねながら、講習会開催時には開催地に赴き、技術認定員資格の取得または指導員としての認定を目指す。</p> <p>② 全国各地の太鼓団体において多様な打法に触れ、また指導法を学ぶ。</p> <p>③ 太鼓の製造過程を見学すると共に可能な限り、製造・修理技術を習得する。</p>
期待される成果（習得する技術）	<p>① 研修員が日本太鼓について並びに日本太鼓資格認定制度の全体像の理解を深める。</p> <p>② 研修員の太鼓技術を向上させ、太鼓指導者としての資格取得の可能性が増大する。</p> <p>③ 研修員が太鼓の製造過程を体験することができる。</p> <p>④ 研修員が学んだ太鼓技術を活かし、将来的に指導員として南米での太鼓指導が可能となる。</p> <p>⑤ 研修員が帰国後に太鼓製造に関してアドバイスが可能となる。</p> <p>⑥ 研修員が日本の太鼓事業に参加し、実践経験を積むことで自国における活動に活かされる。</p>
研修計画（内容）	<p>① 太鼓の技術研修：全国各地の日本を代表する太鼓チームにおいて、技術を習得する。</p> <p>② 日本太鼓全国講習会及び支部講習会等で技術認定員及び公認指導員の資格取得を目指す。</p> <p>③ 障害者に対する太鼓の指導法を学ぶ。</p> <p>④ 日本の太鼓製造工場において、製造過程を見学しながら可能な限り体験実習することにより太鼓の製造方法・修理方法を学ぶ。</p> <p>⑤ 講習会に参加することにより、事業運営を学ぶ。</p>
本研修実施の意義 現地日系社会への裨益効果	<p>この事業が展開されることにより、中南米各国で太鼓活動を行っている者にとっては、技術の習得及び日本と同様の資格認定を受けることが可能となるため、大きなモチベーションに繋がり、飛躍的な発展と太鼓を通じて日本文化の継承が図られると期待される。</p>
応募希望者への特記事項	<p>◆ 動画選考について 書類・面接選考合格者は、課題曲（譜面）の演奏を動画で撮影し、提出してください。 応募・選考の流れは以下のとおりです。 1・各国のJICA事務所に応募書類を提出する。 2・各国のJICA事務所の書類・面接選考合格者は、上記に記載されているメールアドレスへ課題曲の動画を提出する。 3・日本国内において、応募書類と課題曲の動画とで選考し、最終合格者が確定となる。</p> <p>◆ 宿舎について 長野県岡谷市の宿泊施設を拠点とし、必要に応じて各研修地に近いホテル等を使用する。</p> <p>◆ 研修員の負担費用について 講習会の参加費、受講料、検定料（技術認定のみ）、講習内検定料（公認指導員を目指す者のみ）、認定料等、資格取得に必要な費用は研修員の負担とする。 参加費：毎回4,000円程度（実施によって多少の増減あり） 技術認定員取得を目指す場合：講習会1回につき受講料9,000円、検定料（試験）1回につき2,000円 公認指導員取得を目指す場合：講習会1回につき講習内検定料5,000円、 技術認定員認定料：2級技術認定員（10,000円）、1級技術認定員（20,000円）、 公認指導員認定料：3級公認指導員（30,000円）、2級公認指導員（50,000円）、1級公認指導員（100,000円）</p>

2026 年度日系社会研修員受入事業

課題曲について

☆譜面の見方について

- ・一線譜の上が右手、下は左手で演奏します。
- ・×印で表された音符は、縁（フチ）を打つことを表します。
- ・↑印は腕を上げることを表します。

一線譜の上に↑印がある場合は右手を、一線譜の下に↑印がある場合は左手を上げてください。

- ・口伝の「ドン」は右手で鼓面を打ち、「コン」は左手で鼓面を打つことを表します。

また、「カン」は右手で縁を、「ラン」は左手で縁を打つことを表します。

☆演奏上の留意点について

①長胴太鼓（サイズは問わず）を使用し、据え置き台にセットし立って演奏を行ってください。

②楽譜に記載の通り演奏を行ってください。

- ・楽譜に記載のない音・掛け声は行わないでください。
- ・指示速度を守ってください。
- ・強弱記号、反復記号は指示通りに演奏して下さい。

☆撮影上の留意点について

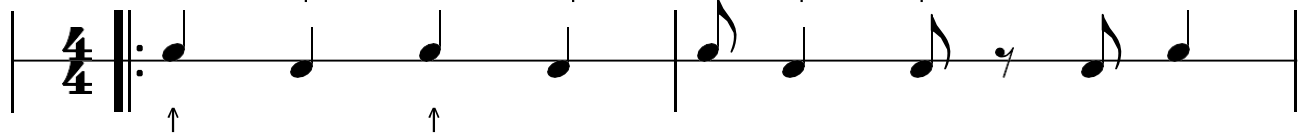
- ・全身が入る前方やや斜めの位置からの撮影してください。
- ・撮影は、横長・縦長どちらの構図でも構いません。
- ・マイクは使用せず生音を収録してください。
- ・撮影した動画の加工・編集は行わないでください。
- ・送信可能な拡張子：「mov（iPhone・iPad形式）」または「mp4（android形式）」をお願いいたします。

2026年度日系社会研修員受入事業 課題曲

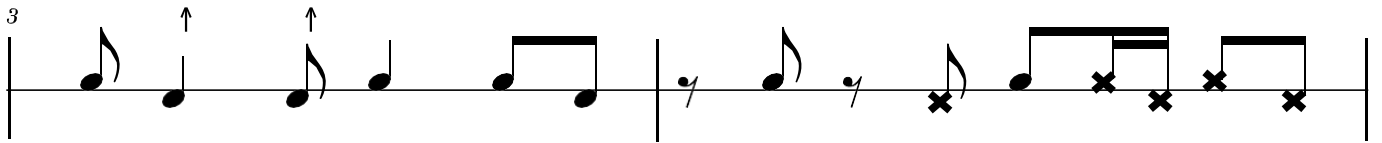
(公財)日本太鼓財団

♩ = 90

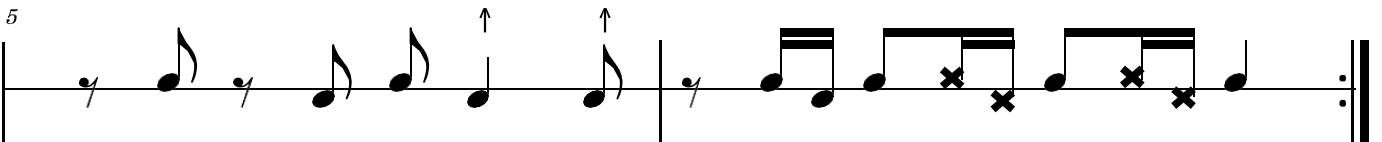
ドン コン ドン コン ド コン コ ス コ ドン



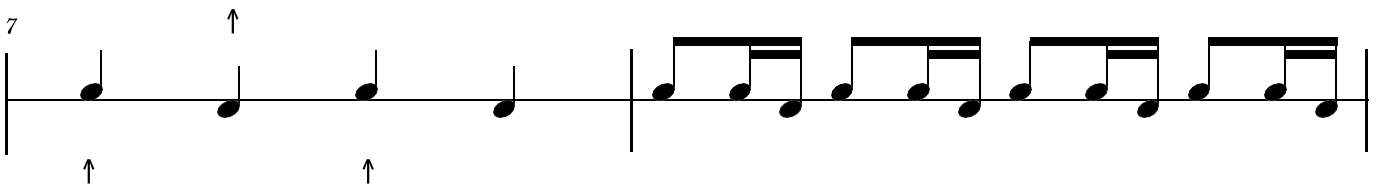
ド コン コ ドン ド コ ス ド ス ラ ドン カラ カ ラ



ス ド ス コ ド コン コ ス ド コ ドン カラ ドン カラ ドン



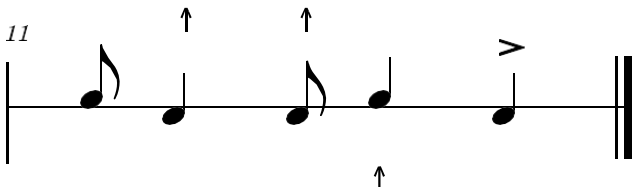
ドン コン ドン コン ドン ド コ ドン ド コ ドン ド コ ドン ド コ



ドン コン ドン コン ド コ ド コ ド コ ド コ ド コ ド コ ド コ



ド コン コ ドン コン



2026年度日系社会研修 コース概要

No	N-33
所管センター	沖縄
分野	日本文化
研修コース名	沖縄そばと沖縄料理
受入人数	10
受入時期	下半期
来日日	2027年1月20日（水）
帰国日	2027年2月20日（土）
提案団体	特定非営利活動法人レキオウイングス
担当者名（日）	串間 武志
連絡先メールアドレス	kushima@lequiowings.org
提案団体ウェブサイトアドレス	http://lequiowings.org/
研修員必要資格	「望ましい条件」 料理人に限らず、県人会、婦人会、青年部で料理に関係する方など、幅広い参加を求める。 ただし、それぞれの立場から沖縄料理を発信していただける方が望ましい。
研修員に必要な実務経験年数	不問
研修使用言語	スペイン語
日本語能力（JLPT目安）	不問
英語能力	不問
研修目標	沖縄そば（沖縄料理）の歴史や調理法、経営・マーケティング手法を学び、帰国後のイベントやSNS発信で活用し、現地食材を使ったアレンジを検討などの技術を習得して、中南米で沖縄そば（沖縄料理）をブランドとして拡める人材の育成を目標とする ※沖縄料理：例）ジュシー、ラフテー、足ティピチ、ゴーヤーチャンプルーなど
期待される成果（習得する技術）	単元目標1：沖縄そば（沖縄料理）の調理と歴史：調理技術と歴史を学ぶ 単元目標2：イベント活用とストーリーテリング：普及促進活動と文化背景の伝え方を学ぶ 単元目標3：代替アレンジとマーケティング：ブランド化と発信方法を習得する
研修計画（内容）	<ul style="list-style-type: none"> ・導入： 沖縄の歴史の専門家、NHK WORLDでの沖縄そばの番組監修者による講義 / 世界に広がる沖縄SOBA著者による講義 ・製麺体験・出汁づくり体験： 沖縄そばなどの歴史の講義 / 沖縄そば開業塾：手打ち・出汁づくり体験、調理ノウハウ、知識、情報を提供し、開業を支援 ・人気店や古いお店を巡って味の違いや提供方法、各店のこだわりを体感： 県内沖縄そばの比較研究：県内各地の沖縄そばを訪ね、比較研究する ・地元イベントでの活用案共有（地元フェスや学校行事への展開方法）： おきなわそば地産地消プロジェクト推進事業：県産小麦を活用した沖縄そばや加工品の認知度向上を目的としたイベントについて / 沖縄そばの日：沖縄の食文化である「沖縄そば」の様々な普及促進活動 / 沖縄そばの町宣言：本部町の宣言の経緯や「そばマップ」の発行の取り組み ・ストーリーテリング（SNS発信、写真、文化背景の伝え方）： THE 沖縄そば：味やサイドメニュー、お店の雰囲気などのカテゴリーを分析した著書について / さんべいの沖縄そば食べ歩き：沖縄そばの食べ歩きの日記をSNSで積極的に発信 ・現地食材を使った代替アレンジ（沖縄で学んだレシピを帰国後どう再現するか）： 現地食材を使った代替アレンジへの指導 —創作沖縄そば（沖縄料理）コンテストを行う ・沖縄料理 ※例）ジュシー、ラフテー、足ティピチ、ゴーヤーチャンプルーなど： 沖縄の食文化：沖縄の伝統的な食文化について学ぶ / 琉球舞踊と琉球料理の体験：ポリビアの青年が琉球料理を学ぶ ・食品衛生：衛生や品質管理について ・マーケティング・ブランディング： 沖縄そばをビジネスとしてのブランディングを行う / 沖縄そばブランド化して効果的に発信する方法をシミュレーションする
本研修実施の意義 現地日系社会への裨益効果	<p>【技術面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沖縄料理継承者への技術指導 ・現地における沖縄料理のメニューの増加 <p>【普及面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沖縄料理の普及啓発（メディアやイベントで沖縄食文化の紹介） ・学校や青少年への文化継承活動 ・沖縄文化イベント×沖縄そば ・SNS、メディアで話題化 <p>【ビジネス面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「沖縄そばフェア」などのテストマーケティング ・沖縄そばのブランド化 <p>【ネットワーク面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各市町村、県人会婦人会、青年部による地域イベントでの提供と販売（地域交流） ・料理教室・ワークショップ開催（文化継承） ・婦人会の活動の幅が広がり、若手参加のきっかけとなる

応募希望者への特記事項	<p>本研修は、中南米で沖縄そば（沖縄料理）を文化とストーリーを持つブランドとして育てることを目標としています。したがって、帰国後に沖縄料理の普及に貢献したいという意欲が選考において考慮されます。</p> <ul style="list-style-type: none">・本研修は、プロフェッショナルな調理技術に特化した研修ではありません。 <p>現地で「沖縄そば/沖縄料理」の魅力を各国（各自の持つ現場）で発信していけるよう、歴史への理解、マーケティング・ブランディングも含めた構成となっています。</p> <ul style="list-style-type: none">・沖縄そばについて参考映像 <p>-NHK WORLD RAMEN JAPAN Okinawa Part1 https://www3.nhk.or.jp/nhkworld/en/shows/3025175/</p> <p>-NHK WORLD RAMEN JAPAN Okinawa Part2 https://www3.nhk.or.jp/nhkworld/en/shows/3025176/</p>
-------------	--

2026年度日系社会研修 コース概要

No	N-34
所管センター	横浜
分野	団体運営・組織強化
研修コース名	持続可能な日系団体運営管理
受入人数	8
受入時期	下半期
来日日	2026年10月7日（水）
帰国日	2026年11月12日（木）
提案団体	公益財団法人海外日系人協会
担当者名（日）	水上 貴雄
連絡先メールアドレス	kenshu@jadesas.or.jp
提案団体ウェブサイトアドレス	https://www.jadesas.or.jp/
研修員必要資格	【必須資格】 日系団体等非営利団体（日系農協および日系団体下部組織を含む）に所属し、帰国後、習得した技術を日系社会や地域社会のために役立てられる者
研修員に必要な実務経験年数	実務経験1年以上
研修使用言語	日本語、スペイン語
日本語能力（JLPT目安）	不問
英語能力	不問
研修目標	持続可能な団体運営の方法に関する知識を習得し、ソーシャルビジネス的手法を用いた日系団体による地域活性化のための新規事業計画を作成する。
期待される成果（習得する技術）	1. ソーシャルビジネス的な手法を含む非営利団体の運営管理手法に関する知識を習得する。 2. 課題先進国と呼ばれる日本における非営利団体の活動を参考にし、所属する日系団体の新規事業のアイデアを考察する。 3. 他国、他地域の日系団体間のネットワークを構築する。 4. 研修員が、帰国後の具体的実践計画を作成する。
研修計画（内容）	<p><非営利団体運営手法> 【講義】日系社会と日系団体手法、ソーシャルビジネス論、ファンドレイジング手法、イベントと地域活性化／【演習】ファンドレイジング計画立案、イベント企画／【視察】ソーシャルビジネス活動現場（まちづくり、青少年育成、文化活動、福祉）</p> <p><社会課題解決のための新規事業立案> 【講義・演習】社会的課題発見手法、問題解決手法、新規事業作成手法</p> <p><日系団体ネットワークの構築> 【講義】各国日系団体事情と活動例、日系社会における文化継承の意義、在日日系コミュニティの現状／【演習】日本文化紹介ワークショップ 【視察】海外日系人大会参加、在日日系コミュニティ支援団体、移動する子どもの言語・文化継承</p> <p><実践計画作成> ファシリテーション手法、討議、実践計画作成</p>
本研修実施の意義 現地日系社会への裨益効果	非営利活動に関する講義や課題解決手法等の演習、地域課題解決型NPO法人や価値提供型NPO法人等の活動視察を通じて、相互扶助団体としての日系団体から地域貢献活動を中心とした新しい日系団体のあり方を見出し、日系団体および日系社会並びに地域社会が活性化されることが期待される。また、ソーシャルビジネス手法を習得し、ソーシャルビジネス手法を用いた持続可能な団体運営に関する知識の習得及び新たな事業計画の作成を目指す。
応募希望者への特記事項	

2026年度日系社会研修 コース概要

No	N-35
所管センター	四国
分野	日本式経営
研修コース名	中小製造業の企業経営者に学ぶ日本の経営管理
受入人数	10
受入時期	下半期
来日日	2026年10月7日（水）
帰国日	2026年11月5日（木）
提案団体	特定非営利活動法人グローカル四国
担当者名（日）	河内 正則
連絡先メールアドレス	mkawa426@gmail.com
提案団体ウェブサイトアドレス	なし
研修員必要資格	資格は特にありませんが、応募条件として、企業経営者・経営幹部、管理職の方々とします。
研修員に必要な実務経験年数	実務経験1年以上
研修使用言語	日本語 英語
日本語能力（JLPT目安）	N5
英語能力	英語での資料読解、発表、レポート作成可
研修目標	「従業員を育成し、大切に経営」を実践している会社は、一般の会社とどこが違うのか、なぜそのような経営が業績にも結び付くのかなどを研修員が理解し、優良企業の「経営管理手法」「人材育成の仕方」など具体的に即実践可能な経営ノウハウを習得し、実践計画を作成する。
期待される成果（習得する技術）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研修員が「従業員を育成し、大切に経営」を実践している会社の強みを理解することで自国企業との差異を認識し、改めて「自社の強み」を明確にすることができる。 2. 研修員が実践企業の実態を徹底研究することで、「日本的経営の特色」や「従業員を大切に経営」、「5Sをベースにしたムダの削減」など「経営管理」の方法を習得する。 3. 講義や実践企業の実例を参考に、研修員が自国で活用可能な制度や仕組みや経営の考え方を整理する。 4. 研修員が、帰国後の具体的な実践計画を作成する。
研修計画（内容）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義・討議：「日本的経営の特色」「日本の中小製造業の特色」 2. 視察・懇談：「従業員を育成し、大切に経営」「5Sをベースにしたムダの削減」を実践している企業3社を徹底研究(ケーススタディ) （視点）・お客様から感謝される経営 ・従業員を大切に経営 ・5Sをベースにしたムダの削減 等 3. 日本文化理解：「さぬきうどんづくり体験」、日本庭園「栗林公園」散策・抹茶体験 4. 演習：「実践計画」作成 5. 発表：「実践計画」発表
本研修実施の意義 現地日系社会への裨益効果	<p>日本企業はなぜ人材育成に重点を置くのか。それは、企業の安定と成長に不可欠だからである。本研修は、「人材（従業員）育成」を第一に考えて経営を実践している四国の中小企業3社を実際に視察し、経営者・経営幹部と懇談し、その経営を徹底研究することで、「従業員を大切に経営」ノウハウを習得する。</p> <p>それらの企業は、いずれも経営者と従業員との信頼関係が強く、従業員が長く働きやすい職場環境であり、業績も伴っている、いわゆるお手本にしたい「いい会社」である。</p> <p>最近ではこのような経営の考え方が中小企業を中心に日本全体に広がっており、中南米の日系企業もこのような経営を目指すことで、抱えている諸課題（日系社会の産業縮小やリーダー人材不足など）を解決することに繋がる。</p> <p>本研修を修了することにより、研修員が帰国後、まず、自らの実践計画に基づき、組織内に人材育成の仕組みや組織運営（経営）の考え方を導入することで、自らがロールモデルとなる。次に、本研修で得られた知見を周りの経営者・経営幹部と共有することで、自社が「いい会社」に変わっていく。そして、周りの経営者・経営幹部の心にも灯を点けるとそれが広がり大きくなり、やがて日系社会が変わっていくことになる。</p>
応募希望者への特記事項	<p>研修は、日本語または英語で行い、日本語の場合は英語で通訳いたします。</p> <p>また、日本語能力は不問としますが、日常会話ができれば訪問企業の経営者・経営幹部とのコミュニケーションをより深く図ることができます。</p>

2026年度日系社会研修 コース概要

No	N-36
所管センター	四国
分野	日本式経営
研修コース名	小規模食品ビジネスの開発（食の安全：調理と管理・製品開発と販売促進・ビジネスモデル開発のためのバックキャストイング）
受入人数	14
受入時期	下半期
来日日	2026年10月7日（水）
帰国日	2026年10月31日（土）
提案団体	香川大学
担当者名（日）	ルーツ・ピーター
連絡先メールアドレス	lutes.peter@kagawa-u.ac.jp
提案団体ウェブサイトアドレス	https://www.ag.kagawa-u.ac.jp/applied_communication/?page_id=2891
研修員必要資格	食品ビジネス分野の起業家または将来起業を考えている者 日本の食品ビジネスおよび日本の食とフュージョン食品に興味のある者 食品関連分野における基礎的知識を有することが望ましい
研修員に必要な実務経験年数	不問
研修使用言語	英語
日本語能力（JLPT目安）	不問
英語能力	英語での資料読解、発表、レポート作成可
研修目標	研修生は以下を習得する。 A) 食品ビジネスのビジネスモデルを作成し、起業の準備ができる B) 食の安全および関連する問題を理解する C) 日本的食材や現地の健康的な野菜や果物（抗酸化作用を有する、ポリフェノールを含む、など）を有効活用した新規商品開発の方法がわかる D) 日本の文化・食品・ブランド力をどう活かして商品力を高め、顧客をグローバルな食品ビジネスに惹きつけるかがわかる E) 自己の参加、プログラムの利益と得たものについての自己分析ができる
期待される成果（習得する技術）	研修を通して、研修生は新規ビジネスの実践的計画を作成する。これにより、以下を習得する。 A) 「新たな」現地の味のフュージョン食品・料理の商品開発 B) 食品ビジネスのソーシャルメディア等を通じたプロモーション C) 食の安全を達成しつつ、高品質で健康的な商品の開発
研修計画（内容）	1. 講義 成功する食品ビジネス、ビジネスプレゼンテーションの方法、日本食の歴史と発展、ビジネス計画、食品の健康的特性、日本食のフレーバー、ビジネス計画のためのバックキャストイングとソーシャルメディアの活用、会計と小規模ビジネス 2. 実習 現地の食材で健康的なアイスクリームを作る、うどん作り、食品関連見学、フュージョン料理、飲食店オーナーとの討議、フィールド探索、プレゼンテーション予行 3. 発表 研修成果発表（香川大学内またはJICA内）、評価会、閉講式
本研修実施の意義 現地日系社会への裨益効果	具体的には、新規食品ビジネスの開発には、以下の4点が必要である。1) 食の安全と管理の理解（微生物汚染等）、2) 世界のトレンドを押さえつつローカルな味を保持した高品質の新商品の開発方法、3) ビジネス計画の知見や技法、4) 食品資源（抗酸化作用等の健康にいい効果をもたらす現地の野菜や果物）の活用法の理解。 さらに、新規食品ビジネスの開発には、フュージョン料理、健康的な食品や現地の味などの消費トレンドへの強力な訴求が不可欠である。本研修では、研修生は現地の健康的な食品の活用、フュージョン料理の創造、食品安全の高い基準の維持を学ぶ。 本研修の目的は、研修生が帰国後に実際に使える知識や経験を得ることである。それにより、研修生がブランド力のあるグローバルな食品ビジネス（日本の食とのフュージョン）や日本と同等の食の安全を手にして、コミュニティ全体の生活を改善する機会を創出し、日本と彼らの地域社会のとの絆を強くすることができる。
応募希望者への特記事項	本研修は、研修員の同意の上で基本的には英語により実施されるため、研修中は日本語能力は必要とされない。提出課題や発表等は英語により実施するため、CEFRのB1上位レベルの英語能力が必要である。ただし、研修員の間で英語に加えて、ポルトガル語・スペイン語等でディスカッションをすることは、活性化の促進の観点から全く問題ない。

2026年度日系社会研修 コース概要

No	N-37
所管センター	九州
分野	日本式経営
研修コース名	日本的モノづくり技術（カイゼン）
受入人数	8
受入時期	下半期
来日日	2027年1月20日（水）
帰国日	2027年2月18日（木）
提案団体	公益財団法人 北九州国際技術協力協会
担当者名（日）	古賀 義啓
連絡先メールアドレス	y-koga@kita.or.jp
提案団体ウェブサイトアドレス	http://www.kita.or.jp
研修員必要資格	（日系）製造企業、業界団体に所属している製造管理・監督者および普及指導者 ※ 製造管理・監督分野において、3年以上の実務経験を有する者
研修員に必要な実務経験年数	実務経験3年以上
研修使用言語	日本語、英語またはスペイン語 （日英西のいずれかの言語能力が必要。参加者の語学力によってスペイン語または英語のどちらかの通訳を備上する）
日本語能力（JLPT目安）	不問
英語能力	英語でのコミュニケーション可
研修目標	日本的モノづくり技術をベースとした企業の生産性向上のための戦略的計画が策定される。
期待される成果（習得する技術）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本的モノづくり技術の要件を理解する。 2. 日本的な品質管理、生産性管理技術や方策を習得する。 3. 中小企業の経営改善事例を習得する。 4. 上記を統合し、Q, C, D (Quality, Cost, Delivery) 向上のための戦略的計画能力が身につく。
研修計画（内容）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義：日本的モノづくり（文化、思想、考え方） 2. 講義・実習：日本的な品質管理、生産性管理（不良品を出さない現場、現場の活性化、ロスの排除など） 3. 見学・事例研究：5S、KAIZEN実践工場、先端技術工場など 4. 問題解決の進め方（アクションプラン作成）およびプレゼンテーションのやり方
本研修実施の意義 現地日系社会への裨益効果	日本的モノづくり技術により、Q, C, D (Quality, Cost, Delivery) の更なる向上を図ることができ、日系企業の強化ひいては日系社会の発展に寄与する。
応募希望者への特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・日英西のいずれかの言語能力が必要（参加者の語学力によってスペイン語または英語のどちらかの通訳を備上する） ・テキストは、日本語、英語、ポルトガル語にて対応

2026年度日系社会研修 コース概要

No	N-38
所管センター	沖縄
分野	継承
研修コース名	沖縄ルーツの再認識を通して学ぶソフトパワー活用と地域活性化
受入人数	15
受入時期	下半期
来日	2026年10月7日(水)
帰国日	2026年11月7日(土)
提案団体	特定非営利活動法人レキオウイングス
担当者名(日)	串間 武志
連絡先メールアドレス	kushima@lequiowings.org
提案団体ウェブサイトアドレス	http://lequiowings.org/
研修員必要資格	「望ましい条件」 帰国後も沖縄のソフトパワーを活かした活動を精力的に行う意欲のある方
研修員に必要な実務経験年数	不問
研修使用言語	スペイン語
日本語能力(JLPT目安)	不問
英語能力	不問
研修目標	沖縄のアイデンティティが強化され、沖縄のソフトパワーを活かした研修員所属日系地域の活性化に向けた具体的な実践案が組み立てられる。
期待される成果(習得する技術)	1. ルーツとしての沖縄について理解が深まり、沖縄県人としてのアイデンティティが強化される。 2. 地域のリーダーとして地域活性化のための企画力、実践能力が高まる。 3. 沖縄県と研修員所属日系地域のウチナーネットワークが強化される。
研修計画(内容)	行政：沖縄県庁表敬、沖縄県の取組(「世界のウチナーンチュ大会」「世界のウチナーンチュの日」「沖縄21世紀ビジョン」等) 歴史・文化：沖縄の歴史、伝統文化(エイサー、空手、三線、琉舞、しまくとぅば等) 平和：沖縄の心、平和教育、平和祈念資料館、平和の礎 等 リーダーシップ研修：地域活性化(沖縄県北部での事例研修、地域活性化事業案作成 等) 意見交換：県内の若手日系リーダー、学生、県費・市町村移住者子弟留学生、ウチナーネットワークコンシェルジュ(UNG)、本研修の帰国研修員の会との交流 等
本研修実施の意義 現地日系社会への裨益効果	本研修は、沖縄県の施策である「沖縄21世紀ビジョン」に掲げる「世界に開かれた交流と共生の島」にある県系社会との連携、つまりウチナーネットワークの強化にも資するものとして企画している。ウチナーネットワークの強化・推進の上で、沖縄県と県系社会が抱える「沖縄アイデンティティの再認識」と「沖縄と中南米のウチナーネットワークの強化」などの課題認識に定める取り組みを本研修で行うことで、沖縄県の施策にも適うことを企図している。また、「海外ネットワークに関する万国津梁会議(沖縄県)」においても、「世界に開かれた交流と共生の島」の実現に向け基本的課題においても「世界のウチナーネットワークの継承・発展」に向けた取り組みが言及されており、その取り組みにおける課題の一つであるウチナーンチュとしての意識・アイデンティティの低下について「ウチナーンチュ意識の見える化」が提言されている。 県系人のウチナーンチュアイデンティティの根っこには沖縄文化があり、「ウチナーンチュ意識の見える化」においては、「沖縄文化の継承」が主要なテーマとなる。その証左として過去に参加した研修員からも沖縄文化に関する研修を増やしてほしいというリクエストが多くあった。そこで、今回から沖縄文化に関する研修を新たに導入し、「沖縄文化の継承」を目的に母県・沖縄で代々受け継がれてきた文化継承の取り組みを採り上げる。 <沖縄県と日系社会への貢献> 沖縄県では、「沖縄21世紀ビジョン」の実現のため、特に若い世代を対象とした交流事業を実施してきた。本研修では、これまでそれら事業の対象にあたらなかった50歳までの人材を受け入れ対象としている。すでに中南米各地の沖縄県人会の活動に積極的に参加・貢献してきた人材、つまり、今まさに日系社会の中心にいる世代向けの研修を行うことで、沖縄県の目指す施策の実現に寄与できる。研修期間中は、地域社会で活躍する地域のリーダーの活動に触れ、交流する機会を持つ。また、これまでの本研修参加研修員との連携も積極的に促しながら、帰国後所属日系社会で活躍するリーダーとしての人材を育成する。さらに、JICA沖縄は、沖縄県をはじめ県内各市町村で受け入れている移住者子弟研修の研修員にも本研修を公開受講可能とし、沖縄県全体の県系社会の人材育成にも貢献している。 <ウチナーネットワーク発展への寄与> 講義で学んだことについての理解をさらに促進できるよう、視察・体験・意見交換などの機会を研修期間中に設けることで、個々の研修員の沖縄のソフトパワーにさらに磨きをかけるだけでなく、人と人との出会いによる生まれる「いちやりばちよー」という沖縄の心の再認識につながることを狙う。 <沖縄文化の継承> 海外県人会の「沖縄文化の継承」においては、エイサー教室や空手道場など3世、4世の県系人をはじめ、非日系人も交えて多くの参加者で賑わう。非日系人ながらも沖縄文化に魅了され、「沖縄マニア」を自称する人を多く生み出している。ルーツ沖縄で、根幹にある沖縄文化の継承の実際を学び、研修員が帰国後に、次世代(非日系人を含む)への拡充した沖縄文化の継承にも取り組むことで、「沖縄文化」を結節点としたウチナーアイデンティティの継承やウチナーネットワークの拡充への貢献が期待できる。 なお、2023年度の参加研修員を中心に2023年10月30日に「(日系社会集団)沖縄ルーツの再認識を通して学ぶソフトパワー活用と地域活性化研修コースの帰国研修員の会設立に関する声明」が発表され、過去の帰国研修員も参加した本研修の帰国研修員の会が設立(おそらく日系社会研修の帰国研修員同窓会は初めての設立ではないだろうか。)された。2024年8月には、沖縄県知事、県内自治体首長、JICA沖縄所長なども参加するポリビアのコロナオキナワ70周年式典の公式行事として、「沖縄ソフトパワー研修同窓会ポリビアセミナー ～沖縄ルーツとの再会～」が開催されており、ポリビアをはじめ、ペルー、アルゼンチン、ブラジル、遠くはキューバなどからも帰国研修員が参加して、帰国後の活動の報告を行ったことなど、本研修を実施したことによる現地日系社会への非常に高い裨益効果が確認されている。
応募希望者への特記事項	本研修の参加者は、沖縄の歴史や文化、そしてウチナーネットワークを強化するための取り組みについて学びます。本研修を通して沖縄の現状を確認し、沖縄人としてのアイデンティティを強化し、帰国後の日系社会の活性化を図ることを目的としています。したがって、帰国後に沖縄日系社会の活性化に貢献したいという意欲も選考において考慮されます。

2026年度日系社会研修 コース概要

No	N-39
所管センター	沖縄
分野	教育
研修コース名	ウチナーネットワークを活用した持続可能なコミュニティ運営
受入人数	1
受入時期	下半期
来日日	2026年11月11日（水）
帰国日	2027年2月27日（土）
提案団体	一般社団法人世界若者ウチナンチュ連合会
担当者名（日）	金城しずく
連絡先メールアドレス	all@wyua.okinawa
提案団体ウェブサイトアドレス	https://wyua.okinawa/
研修員必要資格	<p>【必須資格】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県系社会で沖縄文化活動に携わっている。 ・ 帰国直後からの研修成果活用を期待するため、想定年齢は21歳-40歳以下。 ・ 研修はすべて日本語でおこなうため、N4以上の日本語力且つ、研修中も意欲的に日本語を学ぶ者。（N4認定を必ずしも持っている必要はないが、それ相当の日本語力が必須）
研修員に必要な実務経験年数	不問
研修使用言語	日本語
日本語能力（JLPT目安）	N4
英語能力	英語でのコミュニケーション可
研修目標	研修員がウチナーネットワーク継承にかかる運営管理の手法などを習得する。
期待される成果（習得する技術）	<p>① 研修員に、世界のウチナーネットワークの全体像が理解される。</p> <p>② 研修員に、若者を対象にしたアイデンティティの強化にかかる企画力が習得される。</p> <p>③ 沖縄県内での地域活性化事例を参考にし、研修員が、自国で適応可能なアイデアを考案する。</p> <p>④ 研修員が、帰国後の具体的な活動計画を作成する。</p>
研修計画（内容）	<p>1. 講義：</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 沖縄の歴史 ② 沖縄移民の歴史 ③ 世界のウチナーネットワークとは ④ ファシリテーションとは ⑤ 企画作りとは ⑥ しまくとぅば（沖縄の言葉） ⑦ 情報発信 等 <p>2. 実習・OJT：世界のウチナーネットワークに関するイベント企画・運営、情報収集、ソーシャルメディアを活用した情報発信 他</p> <p>3. 見学：他団体の施設・活動（公的機関、民間）</p>
本研修実施の意義 現地日系社会への裨益効果	<p>沖縄は移民県であり、5年に一度世界中から沖縄にルーツを持つ県系人たちが集う「世界のウチナンチュ大会」が行われている。当会は、2011年に開催された大会を機に設立し、ウチナンチュネットワークの強化、アイデンティティの継承などを目的に2012年から18歳～35歳を対象とした「世界若者ウチナンチュ大会」を開催してきた。今後も、ウチナーネットワークの更なる発展に向け、行政・民間企業等と連携していく。</p> <p>当会で研修を実施することにより、世界のウチナーネットワークを通して日系コミュニティの機運情勢をはかる。また、ウチナーネットワークに関するイベント企画・運営や情報発信の知見を習得した人材が育成されることで、研修員帰国後は所属している日系社会において、沖縄や日系についての理解を促し、両者の繋がりを強化する即戦力となることが期待できる。</p> <p>実際に過去に受け入れた研修員たちは、帰国後、現地の若い世代へ日本での学びを共有するイベントを開催したり、自身のルーツについてわかったことを家族へ共有するなど、日系コミュニティへ学びを還元しながら活動している。また、日本から現地へ訪問があった際には、受け入れ側として積極的にサポートし、両国の架け橋となっている。</p>
応募希望者への特記事項	

2026年度日系社会研修 コース概要

No	N-40
所管センター	横浜
分野	教育
研修コース名	日系継承教育（教師育成Ⅱ）
受入人数	8
受入時期	下半期
来日日	2027年1月20日（水）
帰国日	2027年2月23日（火）
提案団体	公益財団法人海外日系人協会
担当者名（日）	水上 貴雄
連絡先メールアドレス	kenshu@jadesas.or.jp
提案団体ウェブサイトアドレス	https://www.jadesas.or.jp/
研修員必要資格	<p>【必須条件】</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本語能力試験N2程度以上の能力を有すること（初級～中級までの指導法習得を目標とするためそれ以上の日本語力が必要） <p>【望ましい条件】</p> <ul style="list-style-type: none"> 原則、日系移住者子弟の教育を目的として設立された日系学校に勤務する教師（継承教育を実践する教師を育成することを目的とした研修であるため） 原則、日系継承教育（教師育成Ⅰ）コースを受講した者 <p>※上記コースの受講経験がない者でも経験年数5年以上または教授時間500時間以上の経験を有する者で、本コースからの受講を希望する者は可（中級クラス担当者または担当予定者）</p>
研修員に必要な実務経験年数	その他（必要資格欄に記載）
研修使用言語	日本語
日本語能力（JLPT目安）	N2
英語能力	不問
研修目標	研修員が、継承教育に関する知識（言語、文化、歴史（移住学習を含む））及び指導技術を習得し、日本語教師としての専門性の向上を図るとともに学校運営に関する知識を習得する。
期待される成果（習得する技術）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 継承教育と地域・社会に関する知識、指導技術が習得され、人材育成に関する知識が習得される。 2. 継承教育における言語及び教育に関する知識、指導技術が習得され、主に初中級レベルの指導法に関する知識が習得される。 3. 文化的活動の指導計画作成方法及び指導技術が習得される。 4. 学校運営に関する知識が習得される。
研修計画（内容）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義； <ul style="list-style-type: none"> (1) 継承教育と地域・社会 継承教育と人格形成（日系継承教育の考え方）、言語と社会、人材育成等 (2) 継承教育と言語 言語と教育（目的・対象別言語教育法）等 (3) 継承教育と文化 文化活動（日本事情、文化体験等） (4) 学校運営 学校運営手法 2. 視察；教育機関、日本文化施設など 3. 演習 初級及び中級の学習者を対象とした模擬授業、ワークショップ等 4. 実践計画作成 課題解決手法、実践計画作成
本研修実施の意義 現地日系社会への裨益効果	<p>貴機構による現地研修のための助成金交付や、JICA海外協力隊の派遣といった支援事業はあり、各事業の成果は認められるものの、根本的な課題である教師不足の解消には至っていないため、今後も他事業との有機的な連携を図りつつ、引き続き本研修の実施が必要である。</p> <p>我が国と中南米諸国、特に日系社会との関係を考えると、日系人が日系人としてのアイデンティティを維持・育成することは、両国の良好な関係構築において極めて重要である。その基盤となる日系継承教育を持続的に発展させるためには、本研修を通じて、新しい指導法を修得し、伝統的日本文化および現代日本文化、移住史を含む日本の歴史、日本事情に精通した教師を育成することの意義は大きい。</p> <p>さらに、近年、南米における日本語学習の目的の大半が「マンガ、アニメに代表されるポップカルチャーへの興味」となっている。日系日本語学校が日本文化の多様な魅力を発信する拠点となるべく、教師に対して幅広い日本文化知識の習得を促し、日本文化の担い手となる人材を育成していくことも期待されている。</p>
応募希望者への特記事項	国際交流基金や各国の日本語教師養成講座、汎米研修等に参加したところがある研修員は応募書類に記載すること。

2026年度日系社会研修 コース概要

No	N-41
所管センター	中国
分野	教育
研修コース名	日系アイデンティティの涵養を通じた日系団体の活性化
受入人数	3
受入時期	下半期
来日日	2027年1月20日（水）
帰国日	2027年2月11日（木）
提案団体	島根県
担当者名（日）	細木 由紀子
連絡先メールアドレス	bunka-kokusai@pref.shimane.lg.jp
提案団体ウェブサイトアドレス	http://www.pref.shimane.lg.jp
研修員必要資格	島根県にゆかりのある団体等に所属している者、または、今後所属する意思がある者
研修員に必要な実務経験年数	不問
研修使用言語	日本語
日本語能力 （JLPT目安）	N4
英語能力	不問
研修目標	自身のルーツとなる日系アイデンティティが強化され、自国の日系団体の中核的存在として同団体の活動を活発化させるための企画・実践力を身につける。
期待される成果 （習得する技術）	①研修員が、自身のルーツとなる土地への理解を深め、日系アイデンティティが強化される ②研修員の、日系団体等の活性化のための活動に関する企画力・実践力が強化される ③研修員が、研修を通して交流を深めた日本人との新たな日系ネットワークを構築する
研修計画（内容）	1. 講義、実習 伝統芸能・文化の視察等、地域・団体の活性化等に関する講義、地元青年等との意見交換・交流等 2. 所属する日系団体の活性化のための活動計画の作成 3. 関係者への研修結果の報告
本研修実施の意義 現地日系社会への裨益効果	日系団体の活動に興味のある若者が、自身のルーツとなる土地の文化、伝統等に関する研修や、日本人との交流を通して日系アイデンティティの涵養を図ることで、日本にルーツを有する日系団体の活動の有意性を再認識し、帰国後の日系団体の活動への積極的な参加が期待できるとともに、自国と日本との懸け橋となる人材を育成する。 また、多くの日系団体は世代交代がうまくいかず、総じて活動内容や体制が弱体化しているところ、本事業において、組織・団体の活性化や若い世代の取り込み方等の手法について学ぶことで、自国日系団体の活性化のためのヒントを得ることができる。
応募希望者への特記事項	研修効果に鑑み、島根県人会等、島根県にルーツを有する者が望ましい

2026年度日系社会研修 コース概要

No	N-42
所管センター	横浜
分野	医療・介護・高齢化対策
研修コース名	地域保健医療福祉－病院から地域へ多職種によるチーム医療福祉
受入人数	8
受入時期	下半期
来日日	2026年11月11日（水）
帰国日	2026年12月11日（金）
提案団体	学校法人佐久学園
担当者名（日）	末田 吉子
連絡先メールアドレス	y-tsukada@saku.ac.jp
提案団体ウェブサイトアドレス	https://www.saku.ac.jp
研修員必要資格	<p>*下記の1～4のいずれかを必須資格とする</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療（医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等）従事者 2. 保健福祉（ソーシャルワーカー、高齢者施設のマネージャー等で職種は問わない）に従事する者 3. 日系関連団体の施設等を利用して、高齢者が集まるサロンやデイサービス等を企画、運営している人（資格は問わない） 5. 老年学を学ぶ大学院生
研修員に必要な実務経験年数	実務経験3年以上
研修使用言語	ポルトガル語
日本語能力（JLPT目安）	N4
英語能力	英語での資料読解、発表、レポート作成可
研修目標	研修員が、病院から地域への切れ目のないケアサービスおよび多職種の協働によるチーム医療と地域包括ケアシステムの実践を学び、自国の高齢者ケアの改善に資する人材となる。
期待される成果（習得する技術）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本の高齢者医療、地域医療の現状を理解し、自国の高齢者対策へのヒントを得る。 2. 日本の都心部と農村部に展開されている地域包括ケアの実践を理解し、ブラジルの統一保健医療システム(SUS)と比較することができる。 3. 健康長寿のため、中高年期の生活習慣病予防活動を学ぶ。 4. 高齢者用住宅の利便性について理解する。 5. 高齢者の持てる力や機能を生かせるケアについて理解する。 6. 介護予防の知識・技術、実践方法について理解する。 7. 認知症ケアに有効な地域づくりについて理解する。
研修計画（内容）	<p>研修計画（内容）： 講義、演習、視察、体験により目的を達成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 週間： JICA横浜・東京研修—研修員のJob Reportの発表、総論的な講義（大都市における地域包括ケア（病院から地域に至る研修） 2 週間： 佐久市を中心とする地域の農村部における地域包括ケア研修（佐久大学、JA佐久総合病院、JA鹿教湯リハビリテーション病院、佐久市立浅間総合病院、他高齢者ケア施設、訪問診療・看護・リハビリテーションの同行研修等） <p>2日間： JICA横浜—アクションプランの発表、評価会、閉講式</p>
本研修実施の意義 現地日系社会への裨益効果	<p>一世、二世の移住者の多くは、農業の担い手として入植したが、三世、四世は農業以外の職を求めて都市へ移住し、入植地では高齢化、過疎化が進み、村で構成されていた日系人会のような組織的な活動ができなくなっている地域が多い。日系高齢者は、心身の健康に不安を感じる状況である。住み慣れた地域で近隣の日系高齢者との日本語による付き合い、地域活動への参加、及び生活習慣病や認知症予防活動の機会を増やし、健康意識を高める活動が必要となっている。</p> <p>本コースに応募する保健医療分野で働く研修員は、日系社会の組織に勤務している者、日系社会でボランティアをやっている者などである。訪日研修後は、本業の専門分野の知識や技術を深めたばかりでなく、日本にルーツを持つ日系人としてのアイデンティティが強く意識づけられ、ボランティア活動を積極的に展開している。帰国研修員は、所属日系団体にて認知症予防活動となる新規プロジェクトを立ち上げた。地域により、1週間に1回、或いは、1か月に1回の割合で、高齢者を対象にデイサービス（軽食付き）を実施し、対象の高齢者と家族の評価は高い。日系人が働く場は、行政、大学、研究所、病院、クリニック、農業などさまざまであるが、本研修は、社会の基礎を形成する人間関係の構築と地域づくりに良い影響を与えている。</p>
応募希望者への特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・来日前に、自分の所属組織の概要、強み、弱みを把握したうえで参加すること。 ・来日前に、自国の地域医療、高齢者対策について国の政策、州の政策、市の政策を把握しておくこと。

2026年度日系社会研修 コース概要

No	N-43
所管センター	東北
分野	医療・介護・高齢化対策
研修コース名	音楽リハビリ・プログラム
受入人数	8
受入時期	下半期
来日日	2026年11月11日（水）
帰国日	2026年12月12日（土）
提案団体	株式会社ゆらリズム
担当者名（日）	菊地義仁
連絡先メールアドレス	kikuchi.yura@gmail.com
提案団体ウェブサイトアドレス	https://www.yura-ongaku.com
研修員必要資格	高齢者福祉を中心とした保健医療福祉業務に従事、もしくは日常的に高齢者へ関与している者（看護師や介護士相当の資格あれば尚可）
研修員に必要な実務経験年数	不問
研修使用言語	日本語、ポルトガル語またはスペイン語
日本語能力（JLPT目安）	不問
英語能力	不問
研修目標	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽リハビリ・プログラムの理論と実技を習得する ・帰国後に現地でリハビリの実施やスタッフ等の指導・訓練ができる人材を育成する ・日本国と日系社会との関係強化のための交流を促進する
期待される成果（習得する技術）	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の介護予防に必要な6つ観点「運動器機能向上」「口腔機能向上」「栄養改善」「認知症予防」「閉じこもり予防」「うつ病予防」を理解する ・6つの観点をどのようにプログラムとして展開していくのかを理解し、実際に展開できる ・リラクゼーションヨガ、リズム運動、音楽セッションの3つのプログラムの運営管理手法を習得する ・音楽を活用した運動、音楽演奏手法、脳の活性化訓練手法を習得する
研修計画（内容）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義：研修会場で講師による講義の実施 2. 実習・OJT：音楽リハビリ・プログラムの実演 3. 見学：ゆらリズム（通所介護施設）・他高齢者施設の見学 4. 演習：ゆらリズム等で利用者様向けのプログラム実施 5. 発表：研修内容についてのレポート作成、発表
本研修実施の意義 現地日系社会への裨益効果	<p>本研修は中南米地域の国々が対象であり、その中で最も人口が多い国はブラジルである。ブラジルの人口は約2億人でブラジル当局の発表によると2023年時点でブラジルの65歳以上の割合は10.63%で世界的に見てもかなり低い数値だが、今後日本を上回るほどの速さで高齢化が進むとの試算がでている。ブラジルは中南米地域の中でも日系人が多く、2023年外務省発表によると約270万人という統計がある。ブラジルだけでなく、中南米地域の日系人が高齢になっていくことは想像に難くない。高齢社会では介護予防の視点が重要になってくるが、日本では介護にならないための考え方「介護予防」は一般に浸透しており、介護保険制度も充実している。しかし、中南米では介護保険制度に似た制度はないのに加え、介護予防の意識が低いと言われている。音楽リハビリ・プログラムは介護予防をしっかり行うという理論や意識よりもプログラムをまずは実施することで自然にかつ楽しく介護予防が行えるという性質がある。そしてこのプログラムには介護予防の要素がふんだんに含まれているという流れで行っていく。このような流れは日本のみならず中南米地域に住む日系人にも過去に帰国研修員が多数実施しており、有用であることは証明されている。また、本プログラムは音楽を扱うが、日系人であれば理解できる日本の昔懐かしい曲や、各国で共通の曲を歌ったり楽器を演奏する。現地に住む日系人にとってはとても懐かしく受け入れられやすいものとなっている。</p>
応募希望者への特記事項	研修は宮城県仙台市内で行い、宿舎は仙台市内ホテルを予定

2026年度日系社会研修 コース概要

No	N-44
所管センター	北陸
分野	医療・介護・高齢化対策
研修コース名	医療（耳鼻咽喉科・頭頸部外科）
受入人数	1
受入時期	下半期
来日日	2026年11月11日（水）
帰国日	2026年12月12日（土）
提案団体	金沢大学
担当者名（日）	病院部総務課総務係
連絡先メールアドレス	hpsomu@adm.kanazawa-u.ac.jp
提案団体ウェブサイトアドレス	https://www.kanazawa-u.ac.jp/
研修員必要資格	必要資格；耳鼻咽喉科専門医師であること（医師免許CRM取得済みであること） 経験年数；3年以上 日本語能力；日常会話レベル(絶対要件ではない) 英語能力；研修に耐えうる英語力
研修員に必要な実務経験年数	最終学歴修了後3年以上の実務経験
研修使用言語	英語 可能なら日本語
日本語能力（JLPT目安）	N3
英語能力	英語でのコミュニケーション可
研修目標	金沢大学附属病院耳鼻咽喉科で得た技術及び知識を踏まえ、所属する日系社会における耳鼻咽喉科疾患に対する診療の問題点を抽出し、解決のための具体的な方策を立案、計画し、実行することができる能力の修得。
期待される成果（習得する技術）	①研修員に、日本における耳鼻咽喉科診療の概要が理解される。 ②研修員に、日本の耳鼻咽喉科診療の技術・知見が習得される。 ③研修員により、自国で応用可能な技術・手法等が整理される。 ④研修員が帰国後の具体的な活動計画を作成する。
研修計画（内容）	1. 講義；①耳科疾患に対する手術療法 ②鼻科疾患に対する手術療法 ③頭頸部腫瘍に対する治療法 ④頭頸部腫瘍術後の周術期管理の実際 2. 実習；耳科手術、鼻科手術、咽喉頭手術、頭頸部手術 3. 演習；直面している問題を分析し日本の手法の適応を検討し、アクションプランに反映する 4. 学会・セミナー；計画中 5. 発表；内部
本研修実施の意義 現地日系社会への裨益効果	金沢大学附属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科は、多くの症例を有しており、知識、手技の指導体制が確立されている。また、エビデンスに基づいた診療を実践している。耳科手術指導医、鼻科手術指導医、頭頸部がん専門医をはじめ、多数の耳鼻咽喉科・頭頸部外科指導医が勤務している。 研修については、研修用プログラム、カリキュラムが確立しており、耳鼻咽喉科専門研修指導医が専攻医の個別指導を行っている。これまでに数多くの耳鼻咽喉科専攻医を指導した経験から研修内容・指導方法を再検討し、より多くの研修成果を得られるような改善をしている。 当科で研修を実施することにより耳科、鼻科および頭頸部外科手術を習得した人材を育成することが可能であり、研修員帰国後は所属している日系社会の耳鼻咽喉科・頭頸部外科診療に即戦力として貢献できるようになる。
応募希望者への特記事項	・研修において臨床実習は行わないものとする。 ・研修に際し、事前に抗体値がわかる書類の提出を必要とし、本院が定める基準に満たない場合、ワクチン接種の上、接種証明書の提出を必要とする。（麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、B型肝炎） https://web.hosp.kanazawa-u.ac.jp/research/training/

2026年度日系社会研修 コース概要

No	N-45
所管センター	北陸
分野	医療・介護・高齢化対策
研修コース名	医療（脳神経外科）
受入人数	1
受入時期	下半期
来日日	2026年11月11日（水）
帰国日	2026年12月12日（土）
提案団体	金沢大学
担当者名（日）	病院部総務課総務係
連絡先メールアドレス	hpsomu@adm.kanazawa-u.ac.jp
提案団体ウェブサイトアドレス	https://www.kanazawa-u.ac.jp/
研修員必要資格	必要資格；脳神経外科専門医師であること。 （医師免許CRM取得済みであること） 50歳までの、将来性のある医師 日本語能力；日常会話レベル（絶対要件ではない） 英語能力；研修に耐えうる英語力が必要 研修員に必要な実務経験年数；6年以上
研修員に必要な実務経験年数	その他（必要資格欄に記載）
研修使用言語	英語、日本語
日本語能力（JLPT目安）	N3
英語能力	英語でのコミュニケーション可
研修目標	金沢大学附属病院脳神経外科で得た知識や経験を駆使し当該地域一人一人の患者の全身状態、社会的特性に配慮しそれぞれに最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもって目標への到達とする。
期待される成果（習得する技術）	① 研修員に、日本の脳神経外科臨床の全体像が理解される。 ② 研修員に、日本の脳神経外科手術の技術・知見が習得される。 ③ 上記2項を基に、研修員により、自国で応用可能な技術・手法等が整理される。 ④ 研修員が帰国後の具体的な活動計画を作成する。
研修計画（内容）	1. 講義；①脳神経外科疾患と治療法を学ぶ ②脳神経外科手術の実際を知る ③基本的脳神経外科手術手技の知識、手法を学ぶ 2. 実習；救急現場および脳神経外科手術の見学、モデルを利用した手技習得 3. 演習；問題を分析し日本の手法の適応を検討し、アクションプランに反映する 4. 学会・セミナー；日本脳神経外科学会学術総会 5. 発表；内部
本研修実施の意義 現地日系社会への裨益効果	本研修実施の意義／現地日系社会への裨益効果： 金沢大学附属病院脳神経外科は、脳血管障害、脳腫瘍の手術件数が多く、血管内手術や神経内視鏡、覚醒下手術など、最新の医療技術と知識、手技の指導体制が確立されている。脳神経外科専門医以外に血管内治療専門医、神経内視鏡技術認定医、がん治療認定医など、さまざまな資格をもつ専門医、指導医が携わっている。 研修については、研修用プログラム、カリキュラムが確立しており、脳神経外科専門研修指導医が専攻医の個別指導を行っている。これまでに数多くの脳神経外科専攻医を指導した経験から研修内容・指導方法を再検討し、より多くの研修成果を得られるような工夫を行っている。 当科での研修では脳神経外科診療の内容を理解し適応を判断できる優れた人材を育成することが可能であり、研修員帰国後は所属している日系社会の脳神経外科診療への貢献が期待できる。
応募希望者への特記事項	・研修において臨床実習は行わないものとする。 ・研修に際し、事前に抗体値がわかる書類の提出を必要とし、本院が定める基準に満たない場合、ワクチン接種の上、接種証明書の提出を必要とする。（麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、B型肝炎） https://web.hosp.kanazawa-u.ac.jp/research/training/

2026年度日系社会研修 コース概要

No	N-46
所管センター	沖縄
分野	その他
研修コース名	沖縄における土木設計および地質・土質・地盤調査の実際と運用
受入人数	2
受入時期	下半期
来日日	2026年11月11日(水)
帰国日	2026年12月9日(水)
提案団体	環境サイエンス株式会社
担当者名(日)	ヤマダ淳子
連絡先メールアドレス	people@esc-pacific.com
提案団体ウェブサイトアドレス	https://www.esc-pacific.com/
研修員必要資格	現地大学にて地質・地盤・測量および土木分野や環境等に関連する学部を卒業または卒業見込み者
研修員に必要な実務経験年数	不問
研修使用言語	英語、日本語、スペイン語
日本語能力(JLPT目安)	N5
英語能力	英語でのコミュニケーション可
研修目標	<ul style="list-style-type: none"> ●地質・地盤・測量および土木分野、特に当社の得意とする環境に配慮した土地開発についての最新技術を現場より学び、現地の日系社会のインフラ整備の改善プランを立てる。 ●研修員が地域課題の解決策を見出し、帰国後に実践できる専門的能力を高める。 ●日本文化、特に日本の企業風土を体験を通して、異文化理解を深めることを目指す。
期待される成果(習得する技術)	<ul style="list-style-type: none"> ●土木設計、建築・地質・環境等の専門知識や最新技術に触れる機会が得られる。 ●環境やSDGsに関連した法律や制度、それらに関する技術を分野横断的に触れる機会が得られる。 ●日本・米国のPE(Professional Engineer)による、深く体系的にかつ理解しやすい土木設計、建築・地質・環境、土地開発についての講義・見学等を実施し、各専門分野についての知識・能力向上を図る。 ●研修での学びを反映した改善プランを作成し、帰国後の活動計画について発表する。
研修計画(内容)	<ul style="list-style-type: none"> ●講義：土木設計計画・解析の基礎と実際について ●講義：土質調査と室内試験計画について ●講義：地盤工学計画・解析について ●講義：地形測量の基礎と実際 ●見学：現場見学、機器説明等
本研修実施の意義 現地日系社会への裨益効果	<ul style="list-style-type: none"> ●日本の技術士や米国のPE(Professional Engineer)を持った技術者を通して、日本だけでなく中南米で広く認知されている米国の土木設計および持続可能な土地開発に係る法律および制度に対応する技術に触れ、知見を深めることができる。 ●研修で得られる土木設計、建築・地質・環境等の技術や知識、日本企業における技術者としての姿勢等を日系社会へ還元されることが期待され、さらに専門技術や地域性に精通した技術者として活躍する人材の育成に寄与することが見込まれる。 ●中南米出身の既存の日系人職員と触れ合うことで、日本と母国の日系社会の繋がりをより強固なものとする事が期待できる。
応募希望者への特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・英語力があれば日本語能力は不問。 ・スペイン語、ポルトガル語で直接質問希望の場合は、「Jimmy Oshiro(ESC Vice President):j.oshiro@esc-pacific.com」まで。

2026年度日系社会研修 コース概要

No	N-47
所管センター	札幌
分野	その他
研修コース名	ドローン・人工衛星情報技術を活用した農地、森林、野生生物生息地の評価と管理手法に関する研修
受入人数	8
受入時期	下半期
来日日	2026年11月11日（水）
帰国日	2026年12月10日（木）
提案団体	株式会社インターリージョン(酪農学園認定ベンチャー)
担当者名（日）	金子 正美
連絡先メールアドレス	kaneko@inr.jp
提案団体ウェブサイトアドレス	https://inr.jp
研修員必要資格	表計算ソフトの操作など、基本的なコンピュータ操作が可能なこと。GIS、ドローン、リモートセンシングソフトの操作については問わない。
研修員に必要な実務経験年数	不問
研修使用言語	英語
日本語能力（JLPT目安）	不問
英語能力	英語でのコミュニケーション可
研修目標	農業、森林、環境管理に必要なGIS技術、GPS技術、マイクロ波リモートセンシング技術、ドローンの活用技術を習得する。
期待される成果（習得する技術）	<p>1) GIS技術：GISソフトArcGISの基本的な操作、解析手法を習得する。</p> <p>2) GPS技術：GPSによる農地計測、デジタルカメラとGPSを利用した農地管理。野生動物へ装着するGPSによる野生動物の行動解析手法を習得する。</p> <p>3) リモートセンシング技術：ArcGIS, Metashape, ENVIなどリモートセンシングソフトを利用し、Dove, Sentinel-1, Landsat, Alosなどの人工衛星画像や空中写真などから、緑地抽出手法、収量予測手法などを習得する。</p> <p>4) ドローン技術：操縦方法、データ解析手法、日本におけるドローン運用法規等を習得する。</p>
研修計画（内容）	<p>基礎的なGIS・ドローン技術を習得する集中講習に参加し技術の向上を図る。</p> <p>ドローン開発を行っている国内の研究所や民間企業等の先進地を視察し、最先端ドローン技術を学び、今後の共同研究のネットワークづくりを行うとともに、GIS、ドローンを活用した森林管理（REDD）や野生動物管理に関する講義に参加し、研究及び情報交流を図る。また、出身国（地域）の実際のGISデータ、衛星画像等を使い、ソフトの操作方法のみならず、帰国後にも利用できるデータベースを構築する。なお、使用する機器及びソフトの一部は、帰国後にも利用できるよう、本学が提供する。</p> <p>また、本研修では、英語による講義であるため、必要最低限の日本語能力で十分である。</p>
本研修実施の意義 現地日系社会への裨益効果	<p>この研修では、ドローン、GIS、GPS及び人工衛星画像を使用したリモートセンシング技術を活用しながら、地形、土壌、気象情報などの解析を行い、環境保全と両立する営農計画、森林計画、土地利用計画の策定手法を習得する。酪農学園大学は、2009年に米国のESRI社から、GIS技術の特に優れた機関として、日本の大学としては一校SAG賞を受賞するなど、国内最先端のGIS技術を有している。また、酪農学園大学は、国土交通省認可のドローンスクールを2021年に開校している。酪農学園認定ベンチャー(株)インターリージョンは、これらの酪農学園大学の技術、知財を広く社会へ還元するため設立された社会貢献企業であり、これらの技術指導は、日系社会の農業生産力を高めるのみではなく、安心、安全な食品を生産することにより、日系社会の食生活の改善及びSDGsの達成に貢献する。</p>
応募希望者への特記事項	研修の詳細は金子までメールで問い合わせてください。